

発売中
100円

憲法9条を変えて、
「戦争する自衛隊」にして
いいのですか(憲法会議・発行)

九州各地から集い抗議

陸上自衛隊日田演習場(ひじゅうだい)演習場での在沖繩米海兵隊による砲撃訓練に反対する集会が26日、九重河川敷で開かれました。主催は「日田演習場での米軍演習に反対する大分県各界連絡会」です。

れているのは安倍政権であることに確信をもって、反対運動を倍加させ、安倍政権を退場させよう」と訴えました。

監視行動を続ける「ローカルネット大分・日田演習場」の浦田龍次さんは「訓練の縮小・廃止に追い込もう」、玖珠町の畜産業、衛藤洋次さんは「耳をそばだてて目を凝らして抗議の声を上げていきたい」と力を込めました。

集会の最後に、辺野古での米軍新基地建設に反対する沖繩の闘いに連帯し、「日田演習場での米海兵隊訓練の廃止を求め、日米共同訓練と日米軍事同盟の強化反対、戦争法廃止、憲法改悪阻止、核兵器廃絶の運動を九州各地で広げ強めていく決意する」との決議を参加者全員で確認しました。

米海兵隊訓練やめよ

日田演習場



▲「安倍政権を退場させよう」と訴える田村貴昭衆院議員

米海兵隊による砲撃訓練は、来月12日から21日に予定されています。九州各地から集まった2百人が、沖繩の負担軽減にならず、同演習場で常態化されている訓練に抗議の声を上げました。日田からも十数名が参加しました。

日本共産党の田村貴昭衆院議員は、観光地の湯布院で米軍機オスプレイが行った低空飛行訓練に不安と怒りをもつ土産店や旅館の経営者の声を紹介。日米地位協定見直し、全国知事会の要求に上り、昨年夏の参院選で野党の共通政策の中に入り、「追い詰めら

移動・買物支援の調査始める

日田市議会
政策研究会

バス、タクシー、ひたはしり号の現状を聞き取る

市議会政策研究会(会長・日隈知重)は、市内6つの路線バスが今年4月末で廃止されることを受け、移動・買物支援の議会提案をつくるため、調査研究を始めました。

今年4月末で廃止される路線バスは、大野線、出野線、済生会線、有田線、山手線、夜明循環線の6つです。バスがなくなる地域では、乗合タクシーの利用が4月から始まりです。

政策研究会は20日、まちづくり推進課から路線バス、ひたはしり号、乗合タクシー、上・中津江デマンドバスの現状と問題点を聞き取りました。また、長寿福祉課から、介護予防事業でできる移動支援、買物支援について説明を受けました。

路線バスは、廃止が決まった路線以外でも利用者が減っています。

ひたはしり号もコースによっては利用者が減えています。バスに代わる乗合タクシーも、地域によって利用者の人数が多いところと少ないところがあります。

全国の先進事例では、介護予防の生きがいサロン事業で移動・買物支援が住民主体で行われています。日田市でも、19カ所で行われている場(サロン)が行われていますが、移動・買物支援とセットで行われているところはありません。



▲公共交通の現状を担当課から聞き取る政策研究会(20日、写真中央が日隈市議)